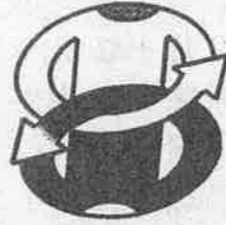


古着伝言板

2004年4月10日

ファイバーリサイクルネットワーク



〒232-0017 横浜市南区宿町2-40 大和ビル101

Tel: 045-710-6507 Fax: 710-6508

FRN

<http://jimfiber.ld.infoseek.co.jp/> <mailto:jimfiber@orabge.livedoor.com>

事務所オープン: 月~金 11:00~16:00

希望が見えた 報告会

服部孝子

3月27日(土),「2004年 ファイバーリサイクルネットワーク」の報告会を開催しました。第1部で1年間の報告をし、第2部では「FRN活動のビジョンを考える。楽しく活動が続けるには?」と題して話し合いの会を持ちました。

* FRNの活動は、「古布・古着」の回収活動を大きな柱として確認し、その上で時代の

変化に伴い、国内リユースやリサイクルを単に業者におまかせにするだけでなく、私たちの側でも、実践して行く時がきていることを確認しました。更に、各地で実行されている行政による繊維の回収についてもFRNの回収との違いをきちんと見極め、自信をもって回収活動を続けて行くことが確認できました。その違いは言うまでもなくFRNの活動の目的は、循環型社会の実現と環境保全を目指しています。それは必然的にゴミの減量化につながっているのです。行政の回収は、第1にゴミの減量化、次にリサイクル率を上げています。リサイクル率と言っても、排出企業に引き渡すことによってその「率」を換算しているとはかと思えません。FRNの活動は常に情報を発信して、その成果が目に見えています。その活動を更に発展させて行くことを確認しました。このように活動を進めるためには、活動しやすい環境を作ることが大切です。気負った気分で、或いは深刻な顔でアルバイトをしているような暗い気分ではなく、布の文化と日本古来の美の追求をしていると言う誇りと楽しさを兼ね備えた活動でありたいと願い第1部を終わりました。

* 第2部の「ビジョンを考える」でも、第1部で確認した事を踏まえて、発展的な意見

や発想が飛び交いました。綿'S倶楽部の代表でもあるナカノ株式会社社長の中野さんからも帰ってきたばかりのインドの状況など生々しいお話を伺うことができました。中野さんのお話は「文章」を頂きましたので、この伝言板に掲載させていただきましたので、じっくりとご覧下さい。そしてFRNは新しい活動に向けて出発しましょう。

—インド紀行—

綿'S 倶楽部代表 中野聰恭

3月10日～20日まで久しぶりにインドへ出かけてきました。寒の戻りでうすら寒い日本から、35℃～40℃真夏のインドへ、還暦を迎える年男の身には激しい環境変化でした。かてて加えて厳しい経済環境の中、日航の半分以下の飛行機代に惹かれてインド航空での初旅行、のっけから遅れてデリーまで13時間(日航なら8時間)、帰りの便はなんと成田まで18時間、安さには理由があることを思い知らされました。今回は長らく閉ざされていたインドの古着マーケットがオープンに成ったので、日本で閉塞感のあるファーマーリサイクルの振興策、ことに冬物衣料のリユースマーケットの開拓が目的です。首都のデリーと港湾都市ムンバイ(旧ボンベイ)を拠点にしてのマーケット調査です。観光旅行ではないので、インド国内での移動も現地のオンボロ車。ろくに冷房も効かない車で悪路を1日10時間～14時間走り回る強行軍。中には外国人が昼飯を食べられるような食堂もない地域もあり、一食抜いても死ぬことは無い、これもお国のため、FRNのため??・・・と。それでも前回訪問した20年以上前のインドから比べると、車も多少綺麗になったのと、有料道路が出来ていたのには驚かされました。それにしてもインドは広いです。

ご存知のように広大な領土と10億人からの人口を有するインドは、中国に次いで年率8～9%と成長著しい国です。巨龍中国が世界の生産工場といわれる様に、インドはIT景気の回復でアメリカのバックオフィスとも呼ばれ、ゼロを発見した数学文化を背景にコンピュータープログラミングなどの産業が急成長しています。しかし経済規模は中国の国内総生産(GDP)1千ドルに比べ、4百ドル台でまだまだ豊かな国とは言えません。そんな中でインド政府の今回の古着マーケット開放は、確固たる成長を視野に入れた巨像インドの自信の表れと受け取れます。

経済の成長に伴って所得が増えて活気とゆとりが出始めていることは、旅行中に巡礼者よりも多くのインド人観光客に行きあったことでも実感しました。しかしGDP400ドルは105円/1ドルで計算すると年間42,000円です。とても豊とはいえません。これまで古着も買えなかった人たちが、ようやく古着が買えるようになった段階です。日本人の感覚ではインドは熱い国との印象が強いですが、北部はヒマラヤの裾野までおよび、内陸部でも山岳高地を有しています。また大陸気候で昼夜の寒暖の差が大きく、したがって日本の冬物衣料を必要としている人々が多くいますが、政治的にも北部パキスタン国境のカシミール地方では国境紛争が続き、道路インフラも遅れており、山岳高地への物の移動は想像するほど容易なことではありません。

今回のインドの旅で冬物衣料を活かすことが出来るマーケットの存在は確認できました。後は「必要としているところに」「必要な物を」「どのようにお届けするか」です。事業者としてFRNの善意をお届けするお勤めを果たして、お釈迦様にゴリヤクをお願いしましょう。

フォーラムよこはま市民展示・市民イベント 2月24日(火)～3月1日(月)

よみがえる古布・古着…「和布で遊んでみませんか？」

旧奥津邸春のイベント 3月6日(土)

「べべ着て遊ぼ」(よこはま里山研究所主催)

2つのイベント 終わりました

立て続けのイベントで、スタッフはめっちゃめっちゃ、忙しかったのですが無事に終わりました。忙しかったのを除けば、かなり楽しいイベントでした。けれどもいくら楽しくてもこんなに続けてのイベントは、計画の段階でもっと慎重に取り組むべきではないかとはスタッフ一同の反省でした。

第1のイベント よみがえる古布・古着…「和布で遊んでみませんか？」

会場はフォーラムよこはま(ランドマークタワー13F)の交流ラウンジ展示場。

2月24日(火)～3月1日(月)までの1週間。その中の2月27日(金)は1日講習会として、交流ラウンジを貸切りしました。来場者:約400名、講習会参加者:約60
講習会:ウールの着物を使った作務衣・裂き布の草履・古布を使った布花ブローチ



第2のイベント 「べべ着て遊ぼ」旧奥津邸の春のイベント(よこはま里山研究所主催)

フォーラムよこはまのイベントが終わって5日しか間を置かず、よこはま里山研究所(同じ大和ビルに事務所を持つ、NPO法人)からの依頼で春の雛祭りに因んだ遊びして、子どもに着物を着せて、日本の遊びをさせるイベントを依頼されました。

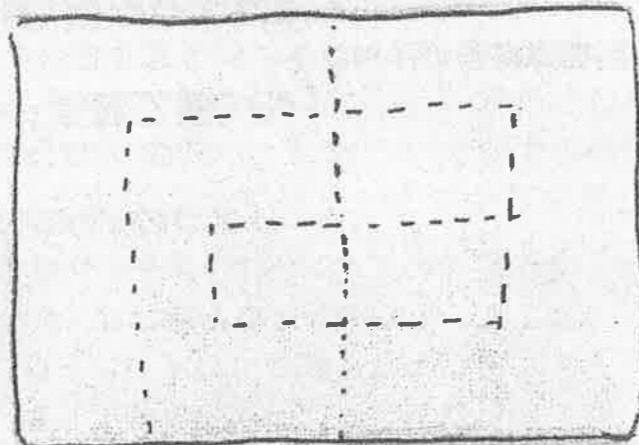
参加した子どもに着物を着てもらい、お手玉や綾取り、折り紙で風船を作ったりして遊びました。



☆☆☆リテックス製品のご紹介☆☆☆

カラーぐんて 1双80円

素材がナイロンストッキングの
裁ち落としなので、水切れ抜群！！
庭仕事、大根やごぼう洗いにも最適。
ぜひ、お試しを……



ダスター 1枚80円

端材を使った雑巾です。
粗織りの布なので、「物」を傷つけず、
ほこり、汚れが良く落ちます。
食器の油落としも、洗剤なしでOK。
環境に良いこと抜群！



白軍手 1双50円、5本指ソックス 1足200円、
ジーンズエコバック 1枚550円も好評販売中！

※お求めはファイバーリサイクルネットワーク事務所までお願いします。

*** お知らせ ***

テレビ東京系列全国6局ネット（関東12CH）

「世の中ガブツと」（古着リサイクルのミッシング・リンク）

放映日時：4月18日（日）18:30pm～19:00pm

出演者：メイン／高木美保

レポーター／エネルギー（若手お笑いタレントコンビ）

ゲストコメンテーター／中野聡恭（綿'S 倶楽部代表）

取材談：回収拠点での取材は3月25日（木）横浜市港南地区連絡会の拠点、コープ
かながわ日限山店、生活クラブせいきょう日限山デポの2カ所に協力していただきま
した。当日の天気予報は「雨」と言われる中どちらの拠点もテントを張って回収車を待
ちました。幸いにも午前中は雨も降らず両店併せて2100*もの古着を綿'S 倶楽部のト
ラックに積み込む事が出来、車は工場へと向かいました。